

全国農業協同組合連合会県本部(J A全農岐阜)は10日、富有柿の出荷のピークが12月3日ごろになるとする予測を発表した。酷暑の影響で収穫時期は年々遅れる傾向にあり、昨年に続いて12月に入ってからピークを迎える見通しになった。(織部俊太郎)

富有柿 12月まで待って



富有柿の生育状況を説明する加藤一美さん＝本巢市内

J A全農岐阜、出荷ピーク予測発表

酷暑で年々遅れる傾向

柿の収穫は果実の先端部分「果頂部」の色づき具合で判断するが、気温が高いと着色が進まず出荷の遅れにつながる。ピークは8、9月の平均気温を基に予測。2015〜24年の出荷ピークの平均は11月26日で、今年は1週間ほど遅くなる見込み。ただ、昨年(12

月9日)よりは6日早い。県産柿の生育状況については、着果量は平年並みで、カメムシ被害の影響が大きかった昨年よりは多くなる見込み。大きさはやや小玉傾向、着色は遅れ気味。食

味は非常に良好という。

出荷ピーク予測の発表は、近年の出荷の遅れから市場関係者や消費者への情報提供が求められているとしてJ A全農岐阜が昨年からは始めた。本巢市の生産者で県園芸特産振興会果樹部会長の加藤一美さん(55)は「富有柿は11月のイメージが強いが、12月に必ずおいしいものが出そう。楽しみに待っていてほしい」と話した。